

に休みがなかったりしてバーンアウトやドロップアウトしちゃうケースが多いって聞きますが。

平柳(医) 医師が自分でバーンアウトしそうかどうか、気づくことは難しいと思うんです。だから周りの看護師や薬剤師を監視でつけることが検討されているようです。しかしそれだと他の職種の仕事が増えてしまうので、それは果たしてどうなのでしょう(笑)

小林(薬) 今回の平柳さんの話はまさにチーム医療ですね。

平柳(医) 医師は全職種の中で最もバーンアウトしやすいそうです。医師の労働時間は、医療系以外の職種と比べると依然として長いのですが、医師が仮に他の職種と同じ労働時間であると仮定して解析するという研究が行われました。しかし、医師のバーンアウトの割合はやはり最も高かったということなんです。

つまり、医療従事者の働き方において改善すべきは労働時間だけではないことが示されたわけですね。やりがいや職場環境についても目を向ける必要があるのかもしれない。

小林(薬) 医師でもやりがいのなさを感じるんですね。ギャップを感じるのでしょうか。

横山(薬) それはあると思います。

高校生の時に見えていた姿と現実が大きく異なるような気がしています。

小林(薬) 看護師さんも理想と現実のギャップが大きいイメージですがいかがでしょう。

本多(看) 看護師のつらさはSNSで結構発信されているんですよ。そこである程度心構えができていますので、実習に行った時にも大きなギャップは感じなかったですね。医師や薬剤師の発信はあまり目にしません、医師は時々あるのかな。

横山(薬) 医師の発信にはどのようなものがあるんでしょう？

本多(看) 自分は漫画で見ました。医師のつぶやきみたいな感じです。医学生はそういうのを見ますか？

平柳(医) 時々見ますよ！確かにそういうのは看護師がメインで時々医者ってイメージです。薬剤師の発信は、あまり見ないかもしれないですね。

横山(薬) 薬剤師はもしかしたらどこかに逃げ道があるのかもしれないですね。臨床以外にも職業の選択肢が多いというのがあるからでしょうか。

小林(薬) SNSがとてもいい働きをしていますね。事前に現実を見ることができると、その方がどう対処したのかを知ることができますから。

## 将来の夢は世界平和

### 周囲の一人ひとりを幸せに

小林(薬) 将来の夢について聞かせてください！

平柳(医) 根本に世界平和があることは変わっていません。今は在宅医療が面白いと感じています。総合診療医や家庭診療医を育成する仕組みが徐々に整備されつつあるので、期待しています。

横山(薬) 日本の在宅医療は進んでいると聞いたことがあるんですけど、どうなんですか？

平柳(医) おそらく1番進んでいるのはアメリカですが、アメリカは日本とは医療制度が違います。そう

いう意味では日本はアジア圏ではリードしている立場にあるのかもしれないですね。

小林(薬) 周りの一人ひとりを助けることで小さな平和が生まれそうですね。

平柳(医) まさにそういうことです！世界を救おうって思うと海外に目を向けがちですけど、それではスケールが大きすぎて現実的には何もできずに終わりそうな気がします。

僕は自分自身でどこに行くかを決めるのではなく、与えられた場所で自分の周りが少しでも幸せになるよう働き

考えよう！

## キャリアデザイン

### 卒業前に再認識したいこと

①

この連載では「薬剤師の職業使命とは何か」というテーマを皆さんに投げかけてきました。皆さんが自分なりにどのような回答を出すことができたか、機会があれば教えて頂きたいと思うのですが、皆さんが薬学部を卒業して薬剤師になる前に、この「薬剤師の職業使命」について再認識してもらいたいと思っています。

以前もお伝えしましたが、私は、薬学部のキャリアデザイン講義や薬剤師対象の職員研修で、「薬剤師の職業使命とは何か」を度々問うています。その返答として、「疑義照会して正しく調剤すること」「減薬をすること」「患者に安心、安全な薬を飲んでもらうこと」などが挙がることにとっても不満を感じています。挙げた回答はどれも、「使命を達成するための行為」を指すものばかりだからです。

そのような行為によって達成すべき薬剤師の職業使命とは、「患者を薬で治す」ことです。

市販薬や医療用医薬品で患者を治す、そしてどちらの手段が適切なのか、その選択をするのも薬剤師の仕事です。どうやったら治せるのか、その根拠を得るために6年かけて薬に関するあらゆる知識と技能を学ぶのでしょ。薬剤師は病院や薬

かけていきたいです。

本多(看) 私は平柳くんみたいに世界は見られていませんが(笑)。とりあえず2月の国家試験に向けて頑張りたいです。

また、私は防衛医大で一定期間勤務



キャリア・ポジション社長

西鶴 智香

局で、効果が見込めそうにない薬を漫然と渡さず、必要に応じて処方変更を打診し、症状が治れば薬を止める。薬を服用しなくても治る方法があるなら、それを伝えるべきでしょう。薬剤師は、患者の治療において非常に重要な役割を担っています。

さて、薬剤師の綱領には「薬剤師は広く薬事衛生をつかさどる専門職としてその職能を発揮し、国民の健康増進に寄与する社会的責務を担う」とあります。薬の専門家としての知識を以て、自律して任務を行う職業であるにも関わらず、薬剤師が時に「患者より営利の追求を優先させる所属会社からの指示」や「処方医からの一方的な要求」を黙認しながら働いていることに疑問を感じます。

今こそ原点に戻り、職業使命と職業倫理を再度自覚すべきではないかと考えています。大学卒業後、薬剤師として就職し働き始めてから、患者より医師や会社を優先する状況を見聞きしても、決して染まらないで下さい。常に職業使命を意識し、仕事に挑むことを期待しています。

することが決まっています。精神科を希望しているのでそういう専門的なことも働きながら勉強したいです。後々は臨床を離れてゆっくりできればなあと考えています。

薬ゼミ オンライン教室

いつでも、どこでも  
繰り返し学べる！

青本マスター編

NEW

- ▶ 実力派講師陣 20 名が集結！
- ▶ 9 科目 約 300 時間分の講義動画
- ▶ 充実のコンテンツ 約 700 動画

